

グリーンボンド / グリーンボンド・プログラム 外部レビューフォーム

セクション1. 基本情報

発行体名:	アサヒグループホールディングス株式会社
グリーンボンド又は フレームワークの名称	グリーンボンドフレームワーク
外部レビュー者名:	株式会社 日本格付研究所
本フォーム記入日:	2020年9月4日
レビュー公表日:	2020年9月4日

セクション 2. レビューの概要

レビュー対象

本レビューでは、以下の要素について審査し、グリーンボンド原則との適合性を確認した。:

- | | |
|--|--|
| ☒ 資金使途 | ☒ プロジェクトの評価と選定プロセス |
| ☒ 資金管理 | ☒ レポーティング |

ROLE(S) OF Independent External REVIEW PROVIDER

- | | |
|------------------------------------|--|
| ☐ セカンドオピニオン | ☐ 認証 |
| ☐ 検証 | ☒ スコアリング／格付け |
| ☐ その他: | |

注:複数のレビュー、異なる提供者がいる場合、レビューごとに個別のレビューフォームを提供してください。

レビューのサマリー 及び 評価レポート全文へのURLリンク

アサヒグループホールディングス株式会社は、アサヒビール株式会社やアサヒ飲料株式会社などを傘下に擁するアサヒグループの持株会社である。1949年設立のアサヒビール（前身企業は1889年創業）を母体に、11年7月から持株会社体制に移行した。酒類事業（19/12期売上収益構成42.5%）のほか、飲料事業（同18.0%）、食品事業（同5.6%）、国際事業（同33.5%）等を展開している。酒類事業は「アサヒスーパードライ」を中核にビール類やRTD、洋酒などで有力ブランドを手掛け、国内酒類業界で高いプレゼンスを誇る。また、清涼飲料も国内3位と業界大手の地位にあり、国内の酒類・飲料市場で強固な事業基盤を構築している。

アサヒグループホールディングスはグループの事業活動が水や農作物をはじめとする「自然の恵み」に立脚しており、「自然の恵み」なくして事業継続は不可能であるとの考えから、環境をはじめとするサステナビリティの取り組みを経営そのものとして捉えている。そうした認識のもと、アサヒグループホールディングスは「アサヒグループ環境ビジョン2050」を策定し、2050年までに「ニュートラル＆プラス」の発想で「自然の恵み」を次世代につなぐことをグループの環境面における目標としている。また、グループCEOを委員長とし、サステナビリティ方針や戦略の策定のほか、サステナビリティに関する投資判断を行うグローバルサステナビリティ委員会を筆頭に、サステナビリティに関する推進体制を整備し、経営とサステナビリティの統合を目指している。

今般の評価対象は、アサヒグループホールディングスがグリーンボンドにより調達する資金を、環境改善効果を有する資金使途に限定するために定めたグリーンボンドフレームワーク（本フレームワーク）である。JCRは本フレームワークが「グリーンボンド原則」および「グリーンボンドガイドライン」に適合しているか否かの評価を行う。上記の原則およびガイドラインは、いずれも各公表主体が自主的に公表している原則またはガイドラインであって規制ではないため、いかなる拘束力を持つものでもないが、現時点においてグローバルに統一された基準として、当該原則およびガイドラインを参照する。

アサヒグループホールディングスは本フレームワークにおける資金使途を①「アサヒ カーボンゼロ」への取り組み、②持続可能な容器包装に関する取り組み、③持続可能な水資源を推進する取り組みと定め、それぞれの資金使途に認証取得や定量的な環境改善効果などによる適格基準を設定している。また、適格プロジェクトの実施に際しては、環境に対する負の影響を考慮し、適切な対応を行うことが定められている。以上より、JCRは本フレームワークにおける資金使途について、環境改善効果が期待されるものであると評価している。

プロジェクトの選定は、アサヒグループホールディングスのSustainability部門およびプロジェクト担当部門等による確認の後、アサヒグループホールディングスの経営戦略会議またはグループ各社の経営会議において評価、選定が行われる。グリーンボンドによる調達資金は専用口座によって分別管理され、出金は部門長等の承認を経て実行される。調達資金は四半期毎にグリーン適格資産への充当が行われ、充当までの間は現金または現金同等物にて管理される。調達資金に関する支出明細や専用口座の残高等について確認が行われるほか、調達資金の資金管理については内部監査および外部監査の対象となっている。資金充当状況および環境改善効果にかかるレポート内容についても適切なものとなっている。以上より、JCRはアサヒグループホールディングスにおける管理運営体制が確立されており、透明性を有すると評価している。

これらの結果、本フレームワークについて、JCRグリーンファイナンス評価手法に基づき、「グリーン性評価（資金使途）」を“g1(F)”, 「管理・運営・透明性評価」を“m1(F)”とした。この結果、「JCRグリーンボンドフレームワーク評価」を“Green 1(F)”とした。

評価レポート全文へのURLリンクは以下をご参照。

<https://www.jcr.co.jp/greenfinance/>

セクション 3. レビューの詳細

レビュー者は、できる限り以下の情報を、コメントの枠を使用し、できる限り提供することが推奨される。

1. 資金使途

本項目に係るコメント欄：

a. プロジェクトの環境改善効果について

- i. アサヒグループホールディングスが本フレームワークで資金使途とした3分類は、いずれもアサヒグループ環境ビジョン2050で目指している「“ニュートラル＆プラス”の発想で自然の恵みを次世代につなぐ」ために重要な施策であり、環境改善効果が期待される。

ii. ・資金使途1：「アサヒ カーボンゼロ」への取り組み

資金使途1は、アサヒグループホールディングスが、気候変動緩和のための中長期目標として策定した「アサヒ カーボンゼロ」の取り組みに資するものである。本プロジェクトは、グリーンボンド原則における「再生可能エネルギー」、「エネルギー効率」、グリーンボンドガイドラインに例示されている資金使途のうち、「再生可能エネルギーに関する事業」、「省エネルギーに関する事業（建築物の省エネ改修、省エネ性能の高い機器や設備を導入する事業）」に該当する。

・資金使途2：持続可能な容器包装に関する取り組み

資金使途2は、アサヒグループホールディングスが、「持続可能な資源利用100%を農産物原料、容器包装、水について目指す取り組み」の一つであるPETボトルのリサイクルとバイオ素材の活用にかかるものである。本プロジェクトは、グリーンボンド原則における「汚染防止及び抑制（廃棄物のリサイクル）」、「高環境効率商品、環境適応商品、環境に配慮した生産技術及びプロセス」、グリーンボンドガイドラインに例示されている資金使途のうち、「汚染の防止と管理に関する事業（サーキュラー・エコノミーの実現に資する事業）」、「汚染の防止と管理に関する事業（海洋プラスチックごみによる汚染の防止に資する事業）」に該当する。

・資金使途3：持続可能な水資源を推進する取り組み

資金使途3は、アサヒグループホールディングスが、持続可能な水資源の推進を目指す取り組みに資するものである。本プロジェクトは、グリーンボンド原則における「生物自然資源及び土地利用に係る環境持続型管理（植林や森林再生といった環境持続型林業）」、「陸上及び水生生物の多様性の保全」、「持続可能な水資源及び廃水管理」に、グリーンボンドガイドラインに例示されている資金使途のうち、「自然資源・土地利用の持続可能な管理に関する事業（持続可能な植林事業）」、「生物多様性に関する事業」、「持続可能な水資源管理に関する事業（水源涵養）」に該当する。

b. 環境に対する負の影響について

アサヒグループホールディングスは、本フレームワークに定めた適格プロジェクトの実施に際し、以下の考慮を行うこととしている。

- ・省エネ性能の高い設備の導入にあたっては、工事における周辺地域への影響を配慮し、工事を実施する際の労働安全環境の確保を行う
 - ・再生可能エネルギーや環境配慮素材の調達にあたっては、「アサヒグループ持続可能な調達基本方針」に基づき、「アサヒグループサプライヤー行動規範」の理解と遵守を要請する
 - ・自動販売機の設置にあたっては、業界団体が定める、清涼飲料自動販売機自主管理基準『自販機自主ガイドライン』に沿った設置を行う。具体的には、環境美化のために、使用済容器を回収するリサイクルボックスの設置、使用済み容器の散乱防止啓発の表示や、景観への配慮を行う。
 - ・また、廃棄処理する自販機の取り扱いに関しても法令を遵守し、自販機の処理方法は、全国清涼飲料連合会、日本自動販売協会、日本自動販売システム機械工業会、日本自動販売機保安整備協会の自販機関連4団体が作成した「自販機の適正廃棄マニュアル」に基づき実施する。投棄の責任者が明らかでない不法投棄された自販機については、自販機販売表示商品の販売者が、その責任において回収・処理する。
 - ・リサイクルPETの使用にあたっては、特にケミカルリサイクルにおいてはその製造工程の特性上CO2排出の増加が懸念されるため、該当技術におけるLCAの把握に努める
 - ・バイオマスプラの使用にあたっては、食料と競合しない原料であることを確認する
 - ・「アサヒの森」の森林経営においては、運搬時の騒音など地域住民への影響に配慮する
- 以上より、環境に対する負の影響が考慮され、適切な対応が行われていると評価している。

GBPにおける資金使途の分類:

- | | |
|--|--|
| ☒ 再生可能エネルギー | ☒ エネルギー効率 |
| ☒ 汚染防止及び管理 | ☒ 生物自然資源及び土地利用に係る環境持続型管理 |
| ☒ 陸上及び水生生物の多様性の保全 | ☐ グリーン輸送 |
| ☒ 持続可能な水資源および廃水管理 | ☐ 気候変動への対応 |
| ☒ 高環境効率商品、環境適応商品、環境に配慮した生産技術及びプロセス | ☐ グリーンビルディング |
| ☐ 発行時点では明らかでなかったが、現時点においてGBP分類に該当することが予想される、または、まだGBP分類に含まれていないが適格グリーンプロジェクト分野と思われるもの | ☐ その他 |

GBP以外のタクソミー(プロジェクト分類)を使用している場合はそれを特定すること。:

2. プロジェクトの評価と選定プロセス

本項目に係るコメント欄:

アサヒグループホールディングスは資金使途について、明確な環境面での目標、プロジェクトの選定基準およびプロセスを定めている。
当該事項は、JCRによる評価レポートの中で開示されている。

評価と選定

- | | |
|---|---|
| ☒ 発行体の環境面での持続可能性に係る目標が定められている | ☒ 対象事業が選定基準分類に適合していることを決定するプロセスが文書化されている |
| ☒ グリーンボンドの資金使途としての適格プロジェクト基準が定義され、透明性が確保されている | ☒ 事業実施に伴うESGリスクの可能性が特定され、管理されるプロセスが文書化されている |
| ☒ 事業の評価と選定基準の概要が公表されている | ☐ その他 |

責任及びアカウンタビリティに係る情報

- | | |
|---|------------------------------------|
| ☒ 評価・選定基準は外部からのアドバイスまたは検証を受けている | ☐ 社内で評価している |
| ☐ その他 | |

3. 調達資金の管理

本項目に係るコメント欄：

グリーンボンドによる調達資金は専用口座によって分別管理される。専用口座からの出金は社内規定に従い、部門長等の承認を経て実行される。調達資金は四半期毎にグリーン適格資産への充当が行われ、充当までの間は現金または現金同等物にて管理される。調達資金に関する支出明細についてはFinance部門およびSustainability部門によって管理される。また、専用口座は毎月末に経理部門およびFinance部門によって支出・残高に関する確認が行われる。

調達資金の資金管理についてはInternal Audit部門による内部監査および監査法人による外部監査の対象となっている。調達資金の管理に関する帳簿については、グリーンボンドの償還およびそれ以降の十分な期間にわたって保存される体制が整備されている。

以上より、JCRではアサヒグループホールディングスの資金管理体制が適切に構築されていると評価している。また、調達資金の管理方法については本レポートにおいて開示されており、投資家に対する透明性は確保されている。

調達資金の追跡管理：

- ☒ グリーンボンドの調達資金は分別管理され、または適切な方法で発行体によって追跡管理されている。
- ☒ 未充当資金の一時的運用方法について、開示されている。
- ☐ その他

追加開示事項：

- | | |
|---|---|
| ☐ 新規投資への充当のみ | ☒ 既存・新規投資両方への充当 |
| ☐ 個別の支出に充当 | ☐ ポートフォリオベースの支出に充当 |
| ☐ 未充当資金のポートフォリオバランスを開示 | ☐ その他 |

4. レポーティング

本項目に係るコメント欄：

a. 資金の充当状況に係るレポーティング

アサヒグループホールディングスでは、グリーンボンドによる調達資金の充当状況について本フレームワークに定める内容を年に一度ウェブサイトを開示する予定である。

b. 環境改善効果に係るレポーティング

アサヒグループホールディングスは、グリーン適格事業の環境改善効果について、適格事業カテゴリー単位で年に一度ウェブサイトを開示する予定である。

資金使途のレポーティング：

- | | |
|--|---|
| ☒ 個別プロジェクト・ベース | ☐ プロジェクトのポートフォリオ・ベース |
| ☐ 個別債券への紐づけ | ☐ その他 |

レポーティング情報：

- | | |
|--|---|
| ☒ 充当金額 | ☐ 投資額に占めるグリーンボンドによる資金充当の割合 |
| ☐ その他： | |

頻度:☒ 年に一度☐ 半年に一度☐ その他:**インパクトレポーティング:**☒ 個別プロジェクト・ベース☐ プロジェクトのポートフォリオ・ベース☐ 個別債券への紐づけ☐ その他**頻度:**☒ 年に一度☐ 半年に一度☐ その他:**レポーティング情報（理論値または実績値）：**☒ GHG 排出量 / 削減量☒ エネルギー削減量☐ 水使用削減量☒ その他ESG指標

- ・ リサイクルPET・バイオマスプラスチック等、環境配慮素材の使用量
- ・ 「アサヒの森」の概要（管理面積を含む）

開示方法☐ 財務諸表における公表☐ サステナビリティレポートにおける公表☐ アドホック（非定期）刊行物における公表☒ その他:
ウェブサイトにおける公表☐ レポーティングの外部レビュー**有用なリンク**

アサヒグループホールディングス株式会社 Webサイト

<https://www.asahigroup-holdings.com/csr/>

JCRのグリーンファイナンス評価手法

<https://www.jcr.co.jp/greenfinance/>**外部レビューを受けた場合、その種類**☐ セカンド・オピニオン☐ 認証☐ 検証☒ スコアリング/格付け☐ その他:**レビュー提供者: 株式会社 日本格付研究所****公表日: 2020年9月4日**

グリーンボンド原則に定められた、独立レビュー業者の役割

1. **セカンド・パーティ・オピニオン**：環境に関する専門知識を持ち、発行体から独立した機関は、セカンド・パーティ・オピニオンを出すことができる。そのような機関は、グリーンボンドフレームワークに関する発行体のアドバイザーからの独立性や、情報障壁など適切な手順を機関内に設け、セカンド・パーティ・オピニオンの独立性を保証することが必要である。セカンド・パーティ・オピニオンは通常グリーンボンド原則への準拠に関する評価を伴い、特に、発行体の包括的な目標、戦略、環境に関する持続可能性に関する方針および（または）プロセスおよび資金使途となるプロジェクトの環境に関する持続可能性の評価が含まれる。
2. **検証**：発行体は、ビジネスプロセスに関するおよび（または）環境基準についての設定された基準に関する第三者検証を受けることができる。検証は内部または外部基準または発行体による目標に沿っているかにフォーカスする。また、対象資産の環境に関する持続可能な特徴の評価は"検証"と呼ばれ、外部基準を参照することができる。発行体の資金管理、グリーンボンドによる調達資金の配分に関する内部追跡システム、環境へのインパクトまたは、グリーンボンド原則への準拠に関する保証または証明も"検証"と呼ぶことができる。
3. **認証**：発行体は、グリーンボンドフレームワークに関連したグリーンボンドまたは資金使途は、認識されている外部グリーン標準・ラベルの認証を受けることができる。標準またはラベルは、特定の基準を定義し、その定義は認証基準に沿っているかを証明できる能力を有し、認定された第三者機関によって、その基準に沿っているかどうかを検査される。
4. **グリーンボンドスコアリング・レーティング**：発行体は、グリーンボンドフレームワークに関連したグリーンボンドまたは資金使途は、スコアリング・レーティング手法を有している専門調査会社や格付機関といった第三者によって評価もしくは調査されることができる。成果物は、環境改善のデータ、グリーンボンド原則に準じたプロセスまたはその他2度目標などのベンチマークにフォーカスしたものが考えられる。スコアリング・レーティングは、重要な環境リスクを反映しているとしても信用格付とは明確に異なる。